

ル島にはそれぞれの墓地がある。戦跡巡りとして毎日観光客が訪れている。

6月12日にフィリピンのマニラ湾の入り口に浮かぶコレヒドール島にあるカソリック教会で「AMDA医療と魂のプログラム」の合同慰霊祭を行った。参加したのはAMDA本部、AMDAフィリピン支部、カソリック教、イスラム教そして仏教の方々だった。

コレヒドール島はマニラ湾と東シナ海をにらんだ戦略的要所であり、マッカーサー元帥が堅固な島ぐるみの要塞を構築していた。1941年に日本軍が攻略したが、1945年には米・比連合軍によって陥落した。多くの日本軍、米軍そしてフィリピン軍の死者をだした。米軍にとっては屈辱的な敗北だった。

マッカーサー元帥がこの島からオーストラリアに敗走する時に言った「I shall re turn」はあまりにも有名である。コレヒドール

私は、父親が軍曹としてコレヒドール島で日本軍の捕虜になったという53歳の元米空軍兵士が案内する観光車両に乗った。一方的に米軍を正当化し、日本軍を非難する説明だった。観光案内も終わるころになって、私が日本人の医師であることに気が付き驚いていた。

その日の夕方から、島内にある小さな教会で合同慰霊祭が開催された。最初に、フィリピンの国旗掲揚と国歌斉唱、次に日本の国旗掲揚と国歌斉唱、最後に米国の国旗掲揚と国歌斉唱が行われた。続いて、カソリック神父のミサの後に、浄土宗の弱冠29歳の太田上人の朗々とした説経が鈴の音と共に参加者の気持ちを高揚させた。AMDAフィリピン支部長、AMDAインターナショナルの名譽顧問のスピーチに続いて、私が次のようにスピーチをした。

コレヒドール島でのAMDA医療と魂のプログラム：ASMP

「コレヒドール島の戦跡を案内されて日本、米國そしてフィリピンの多くの兵士が死亡したこと

に悲しみを感じている。このような悲惨なことを繰り返さないためにAMDAを創った。2002年10月にジュネーブにある国連難民高等弁務官が主催したNGO（非政府組織）国際会議に招かれた。担当者からスピーチのテーマをもらった。アジアの人が宗教、民族、文化、国境等を超えて助け合うことができるのはなぜか。米国やヨーロッパは同じ精神風土でお互いに理解しあっているから助け合うことができる。私は友達のためと心

えた。友達が困難をかかえた時に助け合うことにより、尊敬と信頼の人間関係を築くことができる。この人間関係が構築されて初めてアジアの多様性である宗教や民族等を克服することができ

る。それゆえに、AMDAは紛争や災害被災者を助け合う困難を共にすることによって築かれる尊敬と信頼の人間関係

により世界平和をめざしている団体なのだ」

翌日はコレヒドール島からマニラに帰る日だった。正午にホテルを出る時に、前日に観光案内役だった元米空軍兵士が妻と共に私のところに来た。「一緒に写真を撮りたい」と。

彼らは昨日教会で行われた合同慰霊祭で私のスピーチを聴いていた。彼の日本軍についての説明が少しでも改善することを願った。65年たった今でも、世界各地で第二次世界大戦を風化させない努力が、たとえ一方的であっても、されている。

歴史は常に人間とは何かを問うている。これに比べて、すべての戦争責任を単純に国旗と国歌に帰する教育や運動こそ歴史の風化運動と思える。

コレヒドール島で出会った人たちに、戦争責任として国旗と国歌を問題にする日本の運動を紹介したら、「何ですか。それは」と一笑された。

(AMDAグループ代表)